



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして

11



「あったかい海とおいかけ魚秋」 きょうどう制作 ゆたか作業所 生活介護 デイのみんな ※紹介が8ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う²⁹ P2～3
～あれから半世紀、仲間たちは今 その2～
- ▶ 海外研修ベトナム報告 P4～6
- ▶ 3 回目の成人式 P10～12

2019年 11月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

連載

シリーズ 50周年に想う 28

あれから半世紀、仲間たちは今その2

先月号からの連載です。待ちにまつた「同窓会」は7月12日(金)11時から3時まで、熱田の杜の一角にある熱田神宮会館「蓬萊」で開催されました。会場は神前挙式もできる華やかな会場で、当日は「ゆたか作業所」の本に登場する仲間10名と初期の職員3名、引率職員や本部職員等を含めた28名が賑やかに集いました。懐かしい顔が揃った「同窓会」当日の様子を紹介します。

嬉しそうな“顔”がいっぱい！
受付ロビーで拳がる歓声

結婚式場のような会場前に受付が用意され、仲間の皆さんは左胸にピンクの花をつけ、食後の飲みものを選ぶところから始まりました。一番のりは、左胸に大きなコーサージュのついた素敵なお洋服姿の加藤春子さん。ライフサポートの職員と一緒に来場されました。その後ろには職員第2号の稲垣孝雄さんが、満面の笑顔で並ばれました。白いスーツに身を包んだ鈴木節子さん。福祉村からは堀さんが、職員と一緒に到着されました。久しぶりにお会いした堀さんは、少し背中



加藤さん(左)

が曲がっていました。懐かしさでいっぱいになり、思わず握手をさせて頂きました。磯部さんは蝶ネクタイ姿で登場。とても良く似合っていて、周りから歓声が挙がっていました。ロビーのソファでくつろぐ近藤光子さん、柘植敬子さん、磯部和明さん、野添ちづるさん、その隣には車いすに座った坂野辰江さんの姿が…。穏やかで温かな仲間たちの笑顔に、それだけで「同窓会」への期待が膨らむ光景でした。会場の一角には、「ねぶち通信」



(左から)近藤さん、柘植さん、磯部さん



(左から)野添さん、坂野さん

やパネル、アルバムなど、懐かしい資料が並べられ、鈴木峯保さん(以下、峯保さん)が懐かしそうに

覗き込まれていました。会場には木製の「ゆたか作業所」の看板も飾られました。この看板は開所式を翌日に控えた1972年3月31日、峯保さんが春日井まで引き取りに行った忘れられないものです。ゆたか作業所が現在の泉楽通りに移転するまでの13年間、ずっと作業所を見守ってくれました。



和やかに同窓会スタート 参加者紹介

司会者からの開会挨拶後、参加者の皆さんに一人ずつ自己紹介をしていただきました。

最初は希望の家で暮らしている

桑島聡さん72才。現在は車椅子での生活ですが「くわしまさとしです」と、はつきり名前を言われました。メーデーの歌を歌ったり、「仕事ガ



桑島さん



堀さん(中央)

ンパロウー」と大きな声で叫んでいた姿が思い出されました。同じく希望の家で暮らす福留さんも「私はふくとめひでのぶさんです。今、希望の家で働いています」と、自己紹介をされました。昔から自分の名前前に「さん」を付けていた福留さんですが、変わらぬその言葉を聞き、走馬灯のように記憶がよみがえりました。



福留さん

磯部さんは「ゆたか作業所のいそべかずあきです。今、グループホーム白鳥で住んでいます。」と紹介され、野添さんは「のぞ・え・ち・づ・る」と、三言ずつしつかり名前を言われました。現在トライズで働いている早川さんは「当時、鈴木峯保さんや稲垣孝雄さんたちの最初の頃、お世話になりました。懐かしくてみなさん、元気で安心してました」と述べられました。



早川さん

近藤さんは「私は近藤光子です。縫製やつてきました。ふきんやつとるよ」と、柘植さんは「柘植敬子です。今、家から通っています。にぎわい現場では帯はりやメール便の紙をはさんだりしています。よろしく願います」と挨拶をされました。言葉はなくてもニコニコしながらマイクを握っている坂野さんの姿もありました。

映像で振り返る ゆたか作業所の歴史

スクリーンに昔の写真が映し出されると、立ち上がって「ゆたか」の歌を歌い出した稲垣さん。「グングングン」と峯保さんが歌うと、稲垣さんが「動き出す 動き出す ベルトコンベアー」と歌います。二人の息はぴったりで「当時もこんなふうな仕事をしていたのかな」と思いました。その歌声に会場からは「へー」という驚きの声がかかります。

「名古屋大学の合唱団が歌を創ったの」「名古屋のはずれ、小さな町工場、苦難を超えて喜びあふれる…」ともう一度歌うと、峯保さんや春子さんも加わり、歌う場面もありました。光子さんがふきんを縫っている写真や、磯部さんの四役選挙の立候補の文章も紹介されました。「僕は書記になったら4役会議の時、記録をします。ゆたかにはよくけんかとか暴力があるで止めます。僕にいつびよう入って下さいね」と、ご本人に読んでも頂くと、昔のことが懐かしくよみがえってきました。



(左から) 鈴木峯保さん、稲垣さん

生き生き働く様子や、堂々と自分を主張する仲間たちの姿。自分たちの給料を自分たちでつくり出していく厳しい中で『自己変革』をする場面を見て、『凄いことをしていたのだ』と改めて思いました。」と感想が寄せられました。



鈴木さん

参加できなかった仲間の近況報告

三谷紀子さん(リサイクルみなみ作業所)

1983年のリサイクルみなみ作業所開所以来、自宅から通い、働いてきた三谷さん。当日は、足を骨折し入院されており、参加することができませんでした。



三谷さん

入院前までは、ベルトコンベアーで運ばれて来るペットボトルからキャップを外したり、混入物を取り除く作業をしていました。現在も入院中ですが、笑顔で前向きな三谷さんは、持ち前のガッツで積極的リハビリに取り組み、めざましい回復をされています。今月中には退院の見通しです。

2019年度ベトナム視察・研修報告

法人本部 宇川賢彦



昨年9月、今年2月に続いて、3回目となるベトナム視察・研修に行ってきました。

今回の渡航の目的は大きく2つ、ひとつは職員の海外研修先として、ベトナムでの具体化の可能性を探ること。2つ目は、将来の海外人材としてフエ工科大学との関係づくりと学生達との交流でした。

日程は9月6日から11日まで、海外研修メンバーとして3人の若手職員、視察団事務局として理事長を含め本部職員3名が参加しました。また、この間交流している社会福祉法人、愛光園と名古屋ライトハウスの職員さん3名も加わり、ベトナムの障害者団体や障害者施設の視察と、現地の若い人達との交流を行ってきました。

ベトナム現地視察では、コーディネートを頂いている法政大学の佐野先生のゼミ生、昨年名古屋に来ていただいたエンジョイアブル・イングリッシュのメンバーも同行しました。

障害者(児)事業所の見学

視察研修は、ベトナム中部にある都市、フエ・ダナン・ホイアンにある障害者(児)事業所の視察を行いました。

ベトナムでは、まだ事業所に対する公的な支援がほとんどなく、外国からの財政支援や慈善団体、個人からの寄付などで運営されている所ばかりです。厳しい中でも支えているスタッフの皆さんの意気込みや明るさには、大いに刺激を受けた研修でした。

2日間のホームステイ

全5泊の内、研修メンバーの3人は、エンジョイアブル・イングリッシュの学生さん達の自宅に、2日間ホームステイとして滞在しました。日本語を学んでいる高校生も見え、ご家族含めて温かく受入れて頂き、貴重な体験をすることが出来ました。

フエ工科大学の訪問と学生たちとの交流企画

今回の視察の2つ目の目的であったフエ工科大学には、3日目に訪問することが出来ました。副学長との懇談が実現したり、学生達との交流の時間では、一緒に参加した3法人の事業紹介等も行うことが出来、収穫の多い訪問になりました。

ご家庭で不要になった着物や帯を集めています！



今回のベトナム視察で訪問した、ホイアンにある「リーチングアウト」という障害者作業所から、「日本の中古の着物や帯の柄が人気で、これらを素材に商品づくりをしている。素材提供の協力が出来ないか」との依頼がありました。

ゆたか福祉会でも、発展途上国の障害者支援の一環として、今後、法人全体に呼びかけ集めていきます。ご家庭を訪問しての収集までは行いませんが、法人本部か各事業所に届けて頂ければ、まとめてベトナムに送る予定です。

ぜひ、ご協力をお願いします。

reaching
out gifts that give twice

私たちは、ベトナム中部のホイアンにある Reaching Out (リーチングアウト) です。ソーシャルビジネスを推進する企業として、70人ほどの障害者が働いています。現在、日本の中古着物や帯を再利用し、裁縫製品に活用しています。もし不使用の着物・帯生地があれば、ぜひ寄付いただくとありがたいです。



横井さん

竹川さん

鳥田さん



参加した皆さんの“声” 海外研修に参加して

ゆたか生活支援事業所なかがわ 鳥田 広祐

ベトナムの国(若い世代)の勢い、グローバル化(言語やIT化)の波、日本とベトナムの施設や福祉の差、国民性・文化・生活の違いなど行かなければ分からないことも多く、刺激的な研修であった。しかし、自分が感じた熱量を伝えるのは難しい。現地の空気を肌で感じた職員が増えることが、将来的に目指している人材の受け入れにもつながってくると思う。

研修を今後も継続していき、良い意味で互いの国の「価値観を壊す」研修になれば良いと思う。(少なくとも私は影響を受けたし、価値観が狭いことを痛感した)

今回、同行してくださった佐野先生はじめ、現地の Enjoyable English の方々などの尽力には大変感謝しております。ありがとうございました。

ゆたか希望の家 竹川 仁恵

今回ベトナム研修に参加させて頂き、現地の方と関わることでより身近にベトナムの文化や生活、環境を感じることができました。2日間のホームステイを通じて、食文化や現地の方がどのような暮らしをしているのか、実際に体験することができました。

また、ベトナムの障害者施設をいくつか見学させて頂き、施設ごとで感じる環境の違いに、多くのこ

とを学ぶことができました。そして職員一人一人の知恵や考え方に、たくさんの刺激をもらいました。

施設ごとで置かれている環境は様々ですが、そこにいる現地の方は、みんな未来に向かって一生懸命働いている姿がありました。「私たちもその姿勢を見習わなくてはいけない」と強く感じ、今後の私自身の考え方にも反映させていきたいと思います。

グループハウスなぐら 横井 里美

ベトナムでは、若い人たちの関心の強さや、意欲的な姿勢を肌で感じる毎日でした。私たちの行動は、Enjoyable English という団体の20代前半の人たちが組み立ててくれていました。福祉現場の約10か所の訪問、食事や移動という多くの時間を一緒に過ごしました。ほとんど英語の話せない私にも積極的に話し掛けてくれたり、彼女たちの勢いやパ

ワーに圧倒されていたと思います。

また研修中には二晩のホームステイもさせて頂きました。お世話になった学生は15歳の高校生でした。日本への関心が強く、「日本人とコミュニケーションを取るため」と、ベトナムでは主流でないlineも使用していました。研修を通して、私も職場やその他について「新しいことに向かう積極性をもっと持っていきたい」と思いました。



社会福祉法人 愛光園 「直に感じたエネルギーと輝く笑顔」

日高 啓治

ゆたか福祉会・名古屋ライトハウス・愛光園では相互に交流し、今後の方向性を模索する試みをここ数年進めてきました。私たちの悩みや迷いは共通することが多く、情報共有と意見交換は大変有意義なものとなっています。そうしたところ、鈴木清覚理事長よりベトナムと日本において福祉人材が学び育ち合う機会を創出することを、三法人で取り組めないかのご提案をいただきました。

愛光園では昨年夏からベトナム人女性2名が、EPAによる介護福祉士候補生として介護老人保健施設にて活躍をしています。二人に続く人材の受け入れをどのように拡げていくか課題になっていたこ

ともあり、今回の視察研修に参加させていただきました。

フエ科学大学にて、関係者と今後関係を深めるための協議が叶ったのも、鈴木理事長によるご尽力と、法政大学の佐野准教授による仲立ちがあつてこそと、深く感謝をしております。私にとっては今回が初めてのベトナム訪問で彼の地で、直に感じた人々の前向きなエネルギーであるとか、訪問先で出会った人々の輝く笑顔に衝撃を感じました。

ご一緒した皆さま、なかでも準備と行程において多大なお気遣いを賜りましたゆたか福祉会役職員の皆さま方に心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 名古屋ライトハウス 「寛容さと違いを理解し合うことの素敵さを再認識」

仁藤 千春

国を越えて人と人がつながること、支え合っていくことが、これからの私たちにはできるのかもしれない。そんな国際的な交流を進めていくことの可能性を感じた旅だった。

ベトナムの若者は明るく、勤勉で学びたいという向上心にあふれていた。

ゆたか福祉会さんや佐野准教授との出会いや導きのお陰で、たくさんの人々に出会えたことを心より感謝している。文化や習慣、規範やルールは国が違えばこんなにも違うんだ。ベトナムに足を踏み入れて、まず、感じたことは「違いを受け入れることの大切さ、

自身を縛っている価値があまりにもちっぽけだということ」日本は物にあふれてはいるが、心の豊かさや思いやりの心はベトナムの方が発展しているのかもしれない。

私はいつも日本で職員に「違いを認め合い、尊重し合うことの大切さ」を伝え続けてきた。それは正しかったのだと再認識することもできた旅だった。

人材育成を担う者として、国を越えた交流を続けることをけん引する中で、人の成長（自己肯定・自己理解・他者理解）に貢献し、国内外の魅力ある人材を育成していきたい。

「夢のような刺激的な時が流れて」

立花 篤志

今回のベトナム視察の旅は、私にとって、初めての海外研修でした。ベトナムでの時間を過ごす中、いかに自分が既成概念に縛られているのか、それを実感させられる瞬間を何度も体験させられました。

時代の先端にて、その動きを読み、新しい発想へのひらめきやそれを開拓する人。逆に、時代の寵児とはならずとも、生きづらさを抱える人々への温かな優しいまなざしを持ち、そばで寄り添いな

がら生きる人々たち。でも、どの人も「自身でどうにかしたい」という強いまなざしを持ち、その先への夢や期待を持って進んでおられる。ともかくも、夢のような刺激的な時間でした。

今後の自分がどうあるべきか、整理がつかず、いまだ自問自答の日々が続いております。もう一度、一から考え直してみます。ありがとうございました。

南区障害者関係団体連絡会（南障会）

皆さんで協力できる取り組みができました！

みのり共同作業所

佐藤 正章

8/27

コンサート

南区遊技場防犯組合（南区内のパチンコ屋さんの組合）様のご協力により、今年で8年目となるコンサートが、南区役所講堂にて行われました。当日は南障会加盟団体だけでなく、市内外の児童デイ等や一般の方も含め、3回公演で500名近い参加があり、大いに賑わいました。恒例イベントとして定着してきたこともあり、参加申し込みが殺到し、参加時間や人数の調整もお願いする程の催しとなりました。

今年には和太鼓奏者として国内外で活動し、碧海地域のコミュニティFMのパソナリテイ等も行う笛木良彦さんと、「東海市ふるさと大使」も務める木佐貫あつひさんをお招きしてのステージでした。二人の迫力ある和太鼓と、篠笛の心地よい響きを聴かせて頂くと共に、参加者に太鼓を叩いてもらうミニワークショップ等もあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

太鼓の音色につられ、楽しそうに会場内を走り回る子どもたち、演奏中にも関わらず満面の笑みでお二人の元に来てしまう仲間たちにも動じることなく、また終了後に急遽、始まった撮影会にも丁寧につき合って頂きました。演奏だけでなく、お二人の手柄も垣間見ることが出来たステージでした。

障がいのある方が様々な文化に触れる貴重な機会として、次回開催も楽しみにしています。



太鼓をたたく“みのり”の仲間

9/12~13

一泊研修旅行



夕食交流会～飛騨牛食べました～



一度に乗車できた2階建てゴンドラ

南障会結成以来、毎年続いている一泊研修旅行が2日間の日程で、岐阜の新穂高ロープウェイを目玉企画としながら行われました。観光バスとリフト付きバスを利用したこの旅行には、障がいのある方と家族、ボランティアや施設職員等、様々な立場の総勢71名が参加しました。ゆたか福祉会からも、グループホームを利用する仲間を中心に、たくさんの方が参加しました。

まず初日に向かったのは飛騨古川。昼食後は古い街並みの造り酒屋や、川に泳ぐ鯉のえさやりをしながら散策を楽しみました。宿舎のホテルでは、せんべいの手焼き体験や“さるぼぼ”作り、大きなお風呂に、豪華な食事、そして食後のカラオケと夜遅くまで交流を行いました。

2日目は新穂高ロープウェイへ。7月に下見を行い、一度に多数の車イスの皆さんがロープウェイに乗車することは難しいと判断し、“エール”のリフト付きワゴン車を手配しました。このような対応もあり、参加者全員がロープウェイで山頂へ向かうことができました。曇天も予想された山頂では、雲の切れ間から青空が見え、きれいな山々の絶景を満喫することができた皆さんです。

普段、あまり接する機会のない団体の方々と「楽しく交流を図ることが何よりの研修」と感じた2日間でした。



9月

- 3日(火) 法人安全衛生委員会
- 6日(金) ベトナム研修(~12日)
- 9日(月) 事業運営推進会議
- 10日(火) 保護者連合会研修会
- 11日(水) 新管理職研修
- 12日(木) 南障会一泊旅行(~13日) 於:新穂高
- 14日(土) 職員研修
- 18日(水) 副所長会議
- 19日(木) 作業改善ゼミ
- 21日(土) 研究所例会
- 22日(日) あかつきまつり
- 25日(水) 所長会議
- 26日(木) 社会福祉士相談援助実習合同ガイダンス / 広報・ホームページ編集委員会
- 27日(金) 第2ゆたか希望の家・GHなぐら・相談支援愛知県指導監査 / 食と健康推進委員会
- 30日(月) 研修部会議

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覧)

(9月17日~9月30日手続き分) 順不同敬称略

駒村 忠俊
前田 勝彦
鈴木 智
小野寺由里子



※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございます

表紙の作者紹介



きょうどう制作

ゆたか作業所 生活介護 デイのみんな

「あったかい海とおいかけ魚秋^{さんま}」

デイでは、月木の午前に創作活動に取り組んでいます。なぐり描き、色塗り、ちぎり、貼り絵、アイデア、題名や詩を考えるなど、一人一人が、自分の得意なことをつなぎあわせて、きょうどうで一つの作品に仕上げます。

今回は秋のさんまを取り上げました。「さんま美味しいね」「最近、地球温暖化の影響で海温が上がって…」などなど。

毎回、いろんなテーマで作品を制作しています。完成すると、3階食堂前の廊下に展示しています。

立ち寄られた際にはぜひご覧ください。

広報・442号

2019年11月号(2019年11月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

2020 カレンダー販売の 取り組み始まる!



多くの皆様のご協力をお願いします。

今年もカレンダー販売の時期を迎え、作業所の仲間達からは「ボーナスめざして頑張ろう!」の声が聞こえてきています。各事業所では10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダーの取り組みがスタートしました。年末までの約2ヶ月間、作業所のニュースや注文チラシ、カレンダーの商品見本などをセットし、関係する皆さんの事業所を訪問するなど、各事業所とも忙しく活気にあふれる時期となります。

このカレンダー販売の取り組みは、今から30数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

今回も「働く仲間うた」カレンダーをはじめ、様々な種類のカレンダーがそろっています。ぜひ多くの皆様に、引続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。



052-698-7356

法人本部 小山まで

* チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。

* 各施設でも取り扱っております。

私たち3回目の 成人式を迎えました!

連載も8回目となり、ゆたか福祉会も今年で50周年を迎えます。このような中で、今回ご紹介する皆さんも16名と、今までにない人数となりました。60年という人生の節目を迎え、これからもひとり一人の人生が「自分らしい輝き」を持って過ごせるように、職員はその皆さんの人生に触れながら、願いや想いに寄り添い、伴走者として歩んで欲しいと思います。

ゆたか作業所



しもじ じゅんこ
下地 純子さん

「素敵な着物姿でお祝い」

在宅生活当時、デイサービスの訪問事業でつながりました。昭和61年4月から利用を開始され、現在、月木の週2回の利用です。活動の中では、風船バレー・ボウリング・人生ゲームが特に好きだそうです。ボウリングなどで高得点が出ると満面の笑みを浮かべられています。

現在、グループホームエールで生活されている下地さん。還暦のお祝いでは、念願だった着物を着て、エールの皆さんと犬山のホテルでお食事をされたそうです。後日写真を見せていただきましたが、とっても素敵でしたよ!!



いとう やすみつ
伊藤 康光さん

「水曜グループの ムードメーカー！」

伊藤さんは、バリバリ働いていた30歳の時に脳梗塞で倒れ、右半身麻痺となりました。まだ若く介護保険の施設が利用出来ず、利用できる場を探していた伊藤さん。当時の「デイサービスみなみ」で、新たに中途障害者の方たちのグループを立ち上げることを聞き、準備段階の月1回の開催時から参加されました。

現在は週1回水曜日に利用され、もう20年以上になります。今一番、はまっているのは「トランプの7並べ」。色々戦略を考えながら楽しまれ、見事1位になると満面の笑みを浮かべて喜ばれています。

グループハウスなぐら

グループハウスなぐらでは、9月末に還暦会を行いました。今年、還暦を迎えられた3名の方に前に出ていただき、「おめでとう！」の言葉と皆さんの拍手でお祝いしました。その後、3人並んで記念撮影をしました。これからも元気よく笑顔で過ごしてもらいたいです。

いしかわ まさよ
石川 雅代さん

少し眠そうな石川さんでしたが、カメラを向けるとニコッと笑って、顔の前で元気よくピースサインをしてくれました。カラオケが大好きな方です。カラオケの時間になると真っ先にマイクを取り、元気よくたくさん歌をうたってくれます。大好きな職員に声をかけたり、元気のいい声がいつも施設中に響いています。

にしお ゆみこ
西尾 由美子さん

この日のために自前で購入した真っ赤なドレスを着て、「きれいでしょ」と嬉しそうに微笑んでいました。「新しい地図」の草薙剛君が大好きです。昨年度はファンミーティングにも行きました。いつも草薙君のユーチューブの動画を見たり、ラジオを聴いて過ごされています。



左から石川さん、西尾さん、村山さん

むらやま のりこ
村山 典子さん

赤いちゃんちゃんこを着た村山さん。みんなから「似合ってるよ」と言われ、嬉しそうに笑顔に向けてくださいました。散歩へ行ったり、童謡を歌うのが大好きで、日中活動も休むことなく元気に参加されています。いつも「おはよー!」と大きな声であいさつをしてくれる笑顔が素敵な村山さんです。

ゆたか希望の家



岸 康史さん

愛知県内の児童施設で、18才を超え“年齢超過”となっていた岸さん。希望の家の開所と同時に入所された仲間の1人です。20才の成人式も希望の家で迎えられました。

入所してから39年、大きな病気やケガも無く、今年、還暦を迎える事ができました。健康で過ごす事ができたのは、運送の仕事を頑張ったり、午後は散歩に参加されたりと、毎日の活動を休む事なく励んだ事が繋がったのではないかと思います。

時々、職員室に入って来られて、職員の隣に座ったり、ハグをして声を出して笑うなど、静かな中にもアピールをしている姿が見られる岸さんです。



太田 純之介さん

昭和55年4月、希望の家の開所と同時に入所されました。日中活動は「あすなろ班」に所属し、“運び”の仕事を頑張り、夕食前には散歩やドライブに行かれています。休日には洋服などをご自身で選び、

買い物を楽しまれたり、レストランへ外食に行かれたりしています。

希望の家で行った「敬老会」では、大きな声で唱われ、背筋を伸ばして歩かれる姿からは、とても60歳とは思えない程の若々しさを感じます。

お母様も高齢となり、会う機会も減りました。今では2ヶ月に一度の家族会と、年に一度、職員とお墓参りに出掛け、現地でお母様とお会いしています。

みらいろ



津田 将泰さん

「みらいろの頑張り屋さん」

一般就職を14年間経験し、リサイクル港作業所で23年間、ビン・缶の選別作業を頑張ってきました。現在は2019年7月、新たに開所した「生活介護みらいろ」で新しい仕事に取り組んでいます。

難しい仕事でもコツコツと努力を重ねる頑張り屋さん。「えい、えい、おー！」と他のなかまを盛り上げる姿に、皆励まされています。

9月13日、記念すべき第一回目の還暦のお祝い会を開催しました。ひな壇の席で注目を浴びると、少し照れながら、お祝いのメッセージがつづられた手作りのプレゼントを受け取られ、「宝物が増えた！」と喜ばれた津田さんです。

トライズ



大原 敏明さん

「夢に向かって」

2018年7月からトライズB型で働いています。若い頃劇団にいた経験と性格上から、洗濯物のたたみは折り目がクッキリ出て、清潔感がある仕上がりです。帽子や靴にこだわるお洒落や、江戸前の口調が粹な伊達男の大原さん。

「PRしたいことは？」と尋ねると、「仕事、頑張ってること載せてほしい」「夢はいい人を見つけること！やさしくて思いやりがある人。一緒に買物行ったりして仲良く暮らしたいね」と。

これからも無理なく力を発揮し、夢が叶うことを願っています。

つゆはし作業所



西尾 佳子さん

西尾さんがつゆはし作業所に入所されたのは、2005年11月のことです。ゆたか希望の家のショートステイを利用し、一ヶ月のうち一週間、つゆはしの仲間と過ごしています。

現在は「なかよし班」の一員。とても仕事熱心で、「今日もがんばりましょう！」の号令がかかると、すぐさま自分の定位置に着き、浴用石鹸や箆袋セットの箱入れの仕事を待ちます。

お出かけや誕生日会などに参加されるときは、いつもとは違った表情を見せてくれる西尾さん。外食では一層顔がほころびます。還暦を迎えてもまだまだ元気いっぱいです。

私たち3回目の成人式を迎えました!

第2 ゆたか希望の家



すずき みちこ
鈴木 美智子さん

「我が道をまっすぐに」

美智子さんは、ゆたか希望の家と福祉村の両方の開所から入所されています。視覚障害がありながらも、その他の感覚をフルに研ぎ澄ませ、まるで目が見えているかのように行動される美智子さんです。

作業所班に所属し「ペグ差し作業」をしています。毎月の給料の取り組みで喫茶店に行き、大好きなコーヒーを飲むことを励みに頑張っています。風邪も殆どひかず、薬も一切飲んでいない健康優良者の美智子さん。いつまでも元気で、楽しい毎日を過ごしてください。



あさい ゆたか
浅井 浩さん
「生涯現役」

平成10年の第2ゆたか希望の家開所と同時に入所されました。それ以前はゆたか希望の家に入所されており、山の家（上矢作）でも生活されていました。

現在は農耕班で毎日作業に励み、ニンニクやトウモロコシ、小豆など色々な作物を作っています。ハウスでは洗濯物を干したり、食事の食器を運んだり、自分から「やりたい!」とがんばっています。1月に60歳の誕生日を迎えましたが、衰えを感じさせず元気いっぱい浅井さん。これからも元気で働いて欲しいと思います。



しげざわ のぶこ
繁澤 信子さん

「いつまでも素敵な笑顔で」

繁澤さんは第2ゆたか希望の家の開所と同時に入所され、大自然の中の施設で楽しく過ごされています。作業所班に所属し、毎日軽作業を黙々と頑張っている繁澤さん。食べ物の中でも特に麺類が大好きで、月に2回の麺提供の日を心待ちにしています。

お母様のことが大好きで、月1回の家庭帰省を楽しみにされ、帰省日が近くなると「東栄町行く!」と満面の笑みで話されます。これからも、素敵な笑顔で繁澤さんらしく生活して欲しいと思います。

なるみ作業所



こんどう たつや
近藤 達也さん

「元気に 前向きに」

近藤さんは養護学校卒業後、職業訓練校を経て一般企業で働いた経歴があります。作業所に入所されたのは平成18年11月。現在は自主製品班に所属し、軍手の仕上げ作業や縛り作業を主に取り組んでいます。軍手を束ねる作業は治具がなくても、正確かつ丁寧に束ねて結ぶことができます。

「工賃で買い物したい」「ボーナスが入ったら飲みに行きたい」と自分で稼いだお金を使っての「楽しみ」に思いが膨らみます。仲間の会の役員選挙に立候補したり、「やるまい会」にも参加したりと積極的な姿が見られます。

いつまでも元気に頑張してほしいと思います。



はやかわ みなこ
早川 美奈子さん

「一緒にチャレンジ」

伊勢湾台風が東海地方を襲った1959年生まれ美奈子さん。それから17年後の1976年4月に無認可のなるみ作業所、同年12月、認可になったなるみ作業所に入所されました。あれから34年。現在、美奈子さんは「ドリーム班」に所属。カラオケでは「川の流れるように」「人生いろいろ」などの曲を、しっかりマイクを握り歌われます。「いい日旅立ち」「春よ来い」などの歌も大好きです。激動の60年を生きてこられたからこそ、惹き付けられるものがあり、「いいことあるよ」「春は必ず来るよ」と励まされているような、そんな響きを感じます。これからもいろいろなチャレンジと一緒にしていきましょう。

ゆたか生活支援事業所なるお



かしの あきこ
梶野 秋子さん

一般就労経験後、「なるみ作業所」へ通うようになった梶野さん。生活の場も家庭から「希望の家」へと変わり、その後「ゆたか通勤寮」に入寮されました。

卒寮後は「ゆたか鳴尾寮」を経て、現在は「わかばホーム」に入居されています。再び一般就労にチャレンジし、現在は洗車機製造会社の掃除の仕事をされています。休日には買い物やガイドヘルパーさんと、県内各地のイベント訪問やバスツアーに参加されています。

これからも「定年まで今の職場で働きたい」「旅行に行きたい」というご本人の思いを大切にしていきたいと思っています。